

何が人間を根底で

支えているのか

東京大学大学院

総合文化研究科教授

酒井 邦嘉様

何が人間を根底で支えているのか。結論を言ってしまうえば脳である。人間は言語によって活動を支えられ、その言語は心によって支えられ、その心を支えているのが脳である。

では、その脳はどのように育まれるのか。脳は急激に成長する。二歳で六割完成し、二語文を発し言語の最初の形を作る。三歳では八割まで大きくなり、十二歳で重さとして完成を遂げる。その前に当たる小学校の時期は極めて大切な時期であるといえる。

言語はどのように獲得されていくのだろうか。チョムスキーは、言語生得説を説いている。「話し手が受ける刺激とそれによって発する反応を観察しているだけでは、ヒトが発話の抛り所に行っている精妙で複雑な文法規則を解明できない。普遍文法は生得的に備わっていると考えざるを得ない」というのが、彼の説である。続いて言語教育や言語能力について説明する。

○デジタル機器について

本等と比較してみると、電子化

されたものは、失うものが多くなる。情報の活用においては、紙ベースの価値にも重要性を置くべきである。

○スズキメソッドと母語教育

スズキ氏は「母国語は完璧な教育法である。母語は自動的に使えるようになる。」と言っている。それは、母語が生得的であるためである。一方、第二外国語や情操教育は環境という要素が大きい。母語獲得は、幼児期の吸収力の大きさによるもので、情報の意味に関係なく、自然に身に付いていく能力である。

○脳を創るヒントについて

人間の独創性の基礎には言語能力がある。「ことばの力」の本質は、想像力や思考力であり、生涯に渡る読書や学習が脳を創るのである。効率を求めず、それぞれの子供に合った時間をかけてはぐくんていくことが大切である。

○言語能力を鍛えるには

「聞く・読む」ことで想像力を育てることができ、その入力は適度に少なくし、咀嚼させることが大切である。一方「話す・書く」ことは創造力を育てる。できるだけ多く行わせることが大切である。

最後に、心を育てるのが情操教育で、言葉と心と脳を一緒に育てていくことを伝えたい。それをつなげていけるのが芸術であることを付け加えて講演を終了する。